



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2025年2月16日(日)第131号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内

TEL :043-227-8557



第5回 連続セミナー

「成人期の支援

～知的障害を伴う自閉症者における

グループホームへの移行とその生活～」

加藤 健生 氏 (写真中央) 相模女子大学 社会福祉法人はーとふる

木村 友香理 氏 (写真右) 社会福祉法人はーとふる

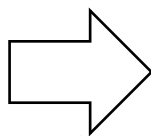
障害者グループホーム等支援事業 NOMAD

酒井 建作 氏 (写真左) 社会福祉法人はーとふる 東安根元ホーム主任

12月に行われた第5回連続セミナーでは、社会福祉法人はーとふる副理事長で相模女子大学助教の加藤健生氏をお迎えして「知的障害を伴う自閉症者におけるグループホームへの移行支援とその生活」について、ご講演いただきました。併せて、社会福祉法人はーとふるの木村友香理氏と酒井建作氏が、同法人が新しく立ち上げたグループホームについて、紹介してくださいました。新しくグループホームを立ち上げる際の職員、利用者、保護者それぞれの「日中支援からの『移行』」について、事例を交えながらわかりやすく教えていただきました。

自閉症の人たちへの支援理念

- × 自閉症だから問題行動をする。
- × 問題行動は自閉症の特性だ。



「暗い環境」から「明るい環境」へ
自閉症の人たちの特性に応じた学習スタイル、
学び方の違いを知る。
心地よくわかりやすい環境に整える。

ハード面(施設・設備)の移行

- ・ 日中支援の場所と隣接しているところに建造する。
- ・ 感覚刺激の配慮から、2階建てではなく平屋にし、床や壁を遮音性の高い素材を使用する。
- ・ 物理的境界を明確にするため、個別の出入り口を設けたり、対面式ではなく横並びの居室構造にしたりする。
- ・ 居室以外の活動が可能になるように通路の幅を広めにする。
- ・ 職員2人で支援できるように浴室を広くする。防犯の観点から、ビデオカメラやフェンスを設置する。

職員の移行

- ・ 生活介護で安定した生活を送っていても、移行をする上で、人や場所、ルーティンは変化を伴うため、今までのスケジュールを使えばそのまま安定するとは限らないという特性の共有をする。
- ・ 暗黙的学習に困難さがあるので、最初の経験がそのままルーティンになってしまう可能性がある。「とりあえずやってみるという考え方は危険だ。」という意識の共有をする。
- ・ 日中支援のみ行っていたため、生活支援のイメージがもてるように視点をシフトする。

- ・家庭に向けた移行支援を行う。
- ・移行前に、日中支援の状態が整っていることが重要なので、日中支援との連携をきちんと行う。
- ・般化先をイメージして日中支援を整える。
(より自立できる支援の見直し・般化しやすい支援への見直し・代替や消去など般化してほしくない行動へのアプローチ・週や月の予定の見直し等を行う。)

保護者との移行

- ・定期的な保護者説明会を実施している。
- ・家での様子をできる限り具体的に情報収集する。家での課題を聞き、職員がどこまで、どのように介入するか、家族として生活の中で大切にしてほしいこと等の共通理解を図る。
- ・個別化した移行スケジュールを作成する。どのような利用希望か、週に何回利用するか、利用する曜日は固定化するかなど、利用者の実態や家族の要望に応じて個別に作成する。

利用者本人との移行（事例紹介）

- ・利用者の移行について、コウヘイさんとヒロトさん2人の利用者の方の例。

コウヘイさんの移行支援のポイント

- ・ルーティン行動に依存しない支援の徹底
- ・集団生活における対人刺激への対応
- ・朝の切り替え（自宅での課題）

ヒロトさんの移行支援のポイント

- ・一人で過ごす時間の充実
- ・コミュニケーション
- ・夜間覚醒への対応（自宅での課題）

- ・それぞれの利用者の課題に応じて、生活介護でうまくいっているケースや手立てをグループホームで般化している。
- ・施設の設定面での工夫を含めた、物理的構造化を行っている。

予防的移行

- ・行動障害が観察される年齢は、6歳以下の段階が最も多く見られるとの報告がある。幼少期からの療育を考えていくことが大切になってくる。児童期の療育や支援を整えていく。
- ・職員は、支援現場で役立つ、より実践的な研修をしてトレーニングしていく必要がある。
- ・一つのグループホームだけが対応するのではなく、相談支援事業や基幹相談支援センターが自閉症の理解を深め、人材のネットワークを構築していく必要がある。

令和7年度 千葉県 TEACCH プログラム研究会第1回連続セミナー紹介

日 時：令和7年5月10日（土）14：00～16：30

内 容：ASDの特性に基づく視覚支援

講 師：諏訪 利明 氏（川崎医療福祉大学医療福祉学部 准教授）

会 場：千葉県教育会館604会議室（千葉市中央区中央4-13-10）

※令和7年度より、定期総会を書面開催で行う予定です。会員の皆様には、令和7年度のお知らせとともに、書面開催の御連絡を申し上げます。なお、書面開催による総会に係る報告及び説明につきましては、令和7年度 第1回連続セミナーのインフォメーション時に御報告いたします。

【編集後記】講義では、新しく事業を立ち上げる際の考え方や配慮について、「移行」という観点からとても具体的なお話が聞けました。グループホームの立ち上げは困難なことが多く、数も足りていない現状がある中で、どのようにして立ち上げていったかが分かり、大変参考になりました。また、児童期の療育や支援の大切さについてあらためて実感し、自分自身の日々の教育活動についてより研鑽を深めていかなければと感じました。これからもたくさん勉強して、支援の現場で役立てていきましょう！（浅井）